
混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse

天儀凌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse

【Zコード】

Z8314Z

【作者名】

天儀凌

【あらすじ】

俺は混沌の後継者なんだとき、まあ気楽にって・・・
いきなり転生つておい！？

まあ良いか混沌の後継者始めるぞ

主人公設定12月29日更新

アンケート1月1週目まで

挿絵募集中です

キーワード31日変更

アンケートの説明

はじめまして、家電球形です！

第0話を見て頂ければいいのですが、

アンケートを行います！

この小説では主人公はサーヴァントで召喚されることは確定しています

つまり、聞きたい事は、

主人公のマスターは誰が良いか？

1・衛宮切嗣

2・言峰綺礼

3・間桐雁夜

4・その他（名前をお書きください）

で募集します！

一番多かったのを採用させていただきます！

一番田は出来れば・フルートをやつてみたいとおもこますー。

個人的には吉峰さんとやらせてみたいですねー。

期限は28、29日を予定していますー。

よろしくお願ひしますー。

アンケートの説明（後書き）

主人公「あのさあ、俺の設定は？」

家電「今日か明日くらいに投稿かな？」

主人公「名前出るよな？」

家電「知らない！」

家電は逃走した！

主人公「つておい待て！」

主人公は追いかけた！

家電「これからもお願ひします！」

主人公「逃げんな――――――！」

第〇話混沌の始まり（前書き）

はじめまして、家電球形です！

こんな短い駄文ですがよろしくお願ひします！

では、混沌の後継者始まります！

第0話混沌の始まり

第0話 混沌の始まり

「あれ、ゼニなんだー？」

ふと、田が覚めるとそこは真っ白？いや、真っ黒？まあ、混沌的な空間があつた。

「ん、ちょっと待て、ソレはビリ？ていうか俺はソソの間イコはワたしが答えヨウ！」

「ヒダれだあンた？つてク調ガ！？」

どういう事だ？相手もさうだが俺の口調が崩れてる！？それにはんだこの感覚？

「よつやく、混沌たる私の後釜が見つかったのはいいが、

動搖している所をみても口調からみても心をみてもやはりまだ完全ではないか」

「ん、どうこの「」だ？あと、質問」「タエロ」

何か誰かさんの口調がきれいになつてゐる……

俺はやうに崩れてるが、後心をみる？

「ん、姿がよつやくはつきつ見えるぞ？だけど向だあの黒と白の刻まれた文様？」

「む・やつこう事か？私の名はカオス、文字通り混沌の神だよ、
そして君は私の後継者に選ばれたといつ事だ、
そして君は混沌を制御していく最中、もう少ししたら慣れるだらう

は、俺がよつは混沌さんの後継者だと？向で俺が？へそ、思考が
全然定まらない……

「まあ、その状態では仕方ないかな？君は自分の名前すらまだついて
してはいまい、

だからまずは状況説明といひ

くつ、納得できないが事実だし頼むとしますかね・・・

「ふつ、それほどまでに嫌なのか? こじが死後の世界だからか? 私が混沌だからか?

自分の状況がその状態だからか?まあ良い、では説明するとしよう」

「まず、この世界だが神界と呼ばれている。まあ上から下まで階層は様々だがね、

そして私は上位十二神の一人だよ」

驚きだな、こりゃ・・・

「・・・・・・・・

「そろそろ隠居したくてね、私の資質を受け持つにふさわしい

人物を探していたんだがそこに君が現れてくれたから助かったよ、

おかげで数百年以上待った甲斐があるものだ

事情と場所はわかつたな、聞きたい事は一つ、それは・・・

「成程な、で、俺はどう死んだんだ？」

「ふむ、慣れてきたようだな、その事に關しては他の神が運悪く交通事故で

殺してしまったと聞いているが？」

「こいつ・・・笑いながら話してやがるよ、自分が誰かに命令したなおい・・・

「はあ、成程なあ・・・で、俺にどうじるといへ・・・

「それなのだがね、まずは他の世界へ転生してもうかと思つて
いるのだよ」

転生ねえ、そんなの前世では全く気にしていなかつたがなあ・・

ビリしたもんかな?

するとカオスは笑つて、

「安心したまえ、これは強制だからな」

つて、ビす黒い穴の中に引きずり込まれてる…・ビリこう事だ!?

「君はある世界へ行つてもいい、なあに向でもあつのよつな世界だから問題は無いぞ?」

「ちょ、何も無じで行くのか!?」

流石にそれは困るだ!?

「なあに、知識と経験と切り札はインプットしておへから問題は無い、

い、

それと切り札は自分で決める、では行ってくるといふ

「なー? ちょっと待つた

俺は穴に全て引きずりこまれた……

「さて、私の後継者 よ、はたしてどうのよいうな混沌へ進むのかな?」

第〇話混沌の始まり（後書き）

すいませんがアンケートを取ります！

誰がマスターがいいか？

1・衛宮切嗣

2・言峰綺礼

3・間桐雁夜

4・その他（名前は書いてください）

の中でお願いします！

主人公は原作を知りませんのであしからず

まあアイリスファイールとかでもOKですよ！

ご意見ご感想どしどしつべ！

アンケートは28、29日傍晚ごまで取りますよ！

主人公設定（ネタバレ有り）（前書き）

いつも家電球形です！

毎度おなじみの主人公設定です！

では、どうぞ！

少々ネタバレがあるかも？です

主人公設定（ネタバレ有り）

主人公設定

名前 ケイオス＝ニ＝カイザー（ニはツヴァイ）

容姿 長めの黒髪（女性からすればセミロング並か少し長いくらい）
に、

金色で柔らかそうで虛ろな目、混沌の神力オスによつて
白い肌に黒い刺繡のような文様の服や同様の肌をしている
服装は青いローブ姿で、下は黒い全身鎧を纏つている
靴は普通の黒いブーツに近い靴には白い文様が入つている

イケメンなはずである、本人曰く刺繡を消せば執事に似合い
そう

召喚時、白と黒が混じつた翼を出しているが、神靈適正がある場合は白、

魔族適正がある場合は黒の割合が多くなるようになつていて、
隠すのも可能

性格 混沌という起源もしくは目的意識がある為、1つ重要視する
事は無い

その場合「それは愚鈍だよ」と言つ、

第四次聖杯戦争では桜の為に聖杯の破壊に動く

マスター 間桐桜（12月28日確定）

クラス ルーラー（主に支配者という意味です）

(12月28日現在で確定)

属性 混沌・中庸

() 内は魔族適正を得ている時

筋力 C (B)

耐久 B (B)

敏捷 C (A)

魔力 A + (B)

幸運 D (E)

宝具 E X

宝具

唯一つの混沌世界 (フォー・カオス・ロードワールド)

ランク : E X (E ~ E X)

種別 : 概念宝具

混沌内の概念を全て操る事が出来る、概念の大きさで魔力消費が決まる。

但し、関連の少ない概念どうしを扱う場合、魔力消費は増大する。
保有スキルの混沌自立、神性・魔性、混沌所持はこの宝具に影響されている。

『虚無』や『無限』等、操れない概念が有る。

但し、それに準ずるような概念は操れる。

クラス別スキル

陣地作成 : A

魔術師として、自ら有利な陣地を作りあげる。

”工房”を上回る”神殿”を形成出来る。

保有スキル

混沌自立（単独行動 : A +）

混沌がなくなる事はなく、始祖神である事から。

マスターからの魔力供給が無くてもある程度自立できる。
これ程のランクになると2週間は限界可能。

神性 : A + (F) 、 魔性 : A + (F)

このランクになると神と同義であるが、
光と影すら伴う混沌なので影になる事で

神靈適性をほぼ全てなくす事が可能である。
その代り反対の魔族適性を得る。

混沌所持 : A

精神系、呪術系の魔術を全て遮断出来る。

宝具の場合もAランク以下の場合防ぐ事が可能。
マスターに対魔力D程度、自身に対魔力Bが付く。
マスターにこのスキルを与えるのは可能だが、その場合、
神性ランクか魔性ランクが着き、魔力値が上がる。
自身のステータスは下がる。

この設定で行かせてもらいます
それではアンケート終了後更新しました！

主人公設定（ネタバレ有り）（後書き）

2010年12月26日の会話

ケイオス「結局出したなおい」

家電「まあね」

ケ「容姿とかは？」

家「いじるの変わるからねえ・・・」

ケ「ちよつと話をしようか・・・」(△△△)

家「待つてー影出しあやてるからああああああーーー」(逃走)

ケ「待てえええ！ーーー」(影を出しながら追走)

これからもお願いしますーーー

アンケート途中経過

どうも、家電球形です！

ただいまの集計経過は、

1・0人

2・0人

3・2人

4・間桐桜（幼少期）2人

イリヤスフィール・フォン・アインツベルン（幼少期）1人

遠坂凜（幼少期）1人

です！

というより、雁夜ブームなんだろうなと最初思っていたんですが、

待つて、4歳いぢやー？ 一体ビリウシう事なんぢ（ry

それに間桐家強し！？

そりひじきさん幼少期（重複有り）派と雁夜派に分かれた！？

他派閥がいないなあ・・・

じゃあ、4・幼少期組、5・その他とさせてもいいます！

27日で切っても変わらないかなあ・・・

でも集計終了は28日予定にしておきます！

どじびじびうぢー。

アンケート途中経過（後書き）

ケイオス「おい、もうアクセス2000越え、ニーク600越え
とはな・・・」

家電「皆さんありがとうございます。できればアンケートをビリヤ
ー！」

ケ「俺からも感謝する」

家「では、27日か28日でーーー。」

ケ「おい、まだ終わってないぞ・・・って行ったのかよ

とりあえず『混沌の後継者』をよろしく頼む

家「何だ、いりこりのひ出来るじやん、フフフ

・ルート関連っぽいストーリー？（前書き）

どうも…家電球形です…」のままだと出なきやうなもの投稿します！

気に入ったものは感想等どうぞ…

・fルート関連っぽいストーリー？

「君はアーサー・ペンドラゴンだな？」

僕は誓っていた・・・正義の味方・・・天秤の守り手になると・・・

「いや、俺は混沌、ケイオス、ケイオス＝ニ＝カイザーだ」

しかし」の黒髪で、金色の目で、白い肌に黒い文様を巻き付けた男
が、

「召喚に応じ参上した、間に答える、お前が混沌たる俺のマスター
なのか？」

僕の存在価値が、僕の理想が、簡単に・・・

「理想はあくまで理想だ、出来るものと出来んものがあるに決まつ
ているだろう？」

「いいや、それでも僕は少數を切り捨ててきたんだ！」

「いい加減気づけ、その果てにあるのが混沌でも何でもない孤独のみだといつこじとを、

それは悪ではない、ただの愚鈍なんだよ、衛宮切嗣」

壊れて崩されていった・・・

「救え、今でも遅くないだらうへその為に召喚されたのだぞ?」

「ああ、やつてやるとも、言峰綺礼最後の勝負だ!...」

そして僕はこの戦いに・・・

「良いのか君は?」の報酬は君に有るべきだろ?」

「良いのか何年後になるかは知らんが・・・

幸せへの戦いに赴けよ・・・

「つー?」

あいつは、今どこで何をしているのかな？

i ルート衛宮切嗣解体編

・fルート関連っぽいストーリー？（後書き）

はい、今回は衛宮切嗣編をやってみました！
ご感想、ご意見あればどうぞ！
アンケートもお願いします！！

ケイオス「そういうえばP.Vが5000越え、ユニークが1200なんだと
な？」

家電「それが困るんだよね・・・記念とか記念とかきこ」

ケ「壊れたな・・・まあ良いか、『混沌の後継者』よろしく頼むぞ！
俺の混沌の為に！！」

家電「つて、お前は嬉しそうだな嬉しそ」

アンケート集計経過

間桐桜（幼少期）4人

間桐雁夜 2人

イリヤスフィール・フォン・アインツベルン（幼少期）1人

遠坂凜（幼少期）1人

蒼崎橙子 w 1人

です！桜人気です！このままだと桜ルート（多分間桐家救出か聖杯戦争崩壊ルート）です。ルートは間桐雁夜とあと一人で予定しています！

かなりきついです！

(ヽ(。ロヽ) ノノハドコ? (ヽロ。) ノアタシハダアレ? 状態)

まだまだ時間はありますのでどしどしどぞー！

ifルート関連っぽいストーリー？（前書き）

どうも、家電球形改め天儀凌です！
ifルート言峰綺礼編行つてみます！

・ ルート関連っぽいストーリー？

私はいつからこの間にをしてこたのだらうか？

サーヴァント、アサシンを召喚してこた時もこんな事を考えている。

この聖杯戦争で、衛宮切嗣との戦いでこの答えを見つけ出す、絶対に・・・

見つか」「おい、お前が混沌たる俺のマスターか？」

何！？確かに私は百の貌のハサンを呼び出したのではないのか！？

「知らん、だがなあ、お前の眼、俺にはわからん事も無いぞ？

「…? どうした事だ？」

「お前には情熱が無い？神の加護が無い？違うんだよ、吉峰綺礼、俺のマスターよ」

「では、私は何を求めているのだー？」

「…？ 待て、落ち着け、」 ひづ等は セ を想い出して…。
！？

「な、なんだー？」

「じつやう、自分の本質から背を向けているだけが、臆病だな

「貴様に何がわかる、アサシンー！」

「わかるとも、だがこれは一つの試練だ

「何？」

「お前は既に見えてーるのだよ、答えを、聖杯への道を」

「では、聖杯が私を導くと？」

「さうだ、お前ではない、聖杯がだ」

「だがそれは・・・遠坂師と戦つ事になる」

「いいではないかね？裏切りもまた必至といつ事だよ」

「・・・・・・・・・・・・」

私は聖杯戦争にどう挑めば良いのか、

衛宮切嗣とどう戦えば良いのか

私の望みとは何なのか

この男は握っているのか・・・

「いいだろう、その道が私の答えになるのだな？」

「ああ、そうだ、来い言峰綺礼これがお前の道だ」

i-fルート関連つぽいストーリー？（後書き）

ケイオス「今日は戦争つぽい描寫すらないな」

天儀凌「良いじゃんか、別に！！」

ケ「ふーん、まあ『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

天儀凌「それではさよなら！」

アンケート集計経過

現在1位 間桐桜 四人

2位 間桐雁夜 三人

3位 幼少期2人（要はイリヤと凜）

蒼崎それぞれW

葛木宗一郎（早い！？） 一人

です！まだまだアンケート募集しますよ！

またアンケート集計経過です、後・・・アンケート追加と一旦打ち切り

天儀凌「どうもー。」

ケイオス「投稿時間的にはこんばんわだな、で、今回は何故本文なんだ？」

天「皆さんに感謝の意とアンケートの経過をだな・・・」

ケ「俺はこれは結局シリアスではなくギャグ小説の説明かと」

天「待つて！それは無いぞ！一応シリアスで後書きがボケなんだよ
これは！」

ケ「ならシリアス要素はどこにある？」

天「今から出すんだよ今から・・・」

ケ「大丈夫か？本当に・・・」

天「大丈夫だ！多分・・・って、言いたい事はそれじゃなくて！」

ケ「で？」

天「お前何なの？いや、始めてマジックの集計結果だ！」

活動報告の方にも有りますよ」

ケ「ふむふむ、で現在は・・・

間桐桜 4票

間桐雁夜 4票

イリヤ 1票

遠坂凜 1票

蒼崎青子 1票

蒼崎橙子 1票

葛木（ステイナイト派？） 1票

「そういう事だな」

天「そういう事、で今回は他の作品もやつて欲しいか

1本で出来るだけ頑張つて欲しいかの

意 見 調 査だ――――――！」

ケ「無駄にテンションが高いな・・・」

天「そりゃ、アクセス連日4000越え、ユニーク連日1000越えなら嬉しかるうよ！」

ケ「要是俺もしくは別主人公の他作品を作つてほしいか、作るなかの一択だろ？」

天「素つ氣無いな・・・そういう事だ、

といつ事でアンケートづくりですいませんがアンケートをまた取ります、

他作品をやらない・・・更新が遅く、（1・2回は余裕で）文章が短い

他作品をやらない・・・意見が通りにくい

デメリット込みでお願いします！

「これは1月1週目が期限予定です！」

ケ「といつ事で『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

天「また次回、『意見』感想、アンケートお待ちしてます！

マスターアンケートは28日終了予定です！（終了時刻は未定）

また、アンケートはこれで一旦打ち切りになるのでご安心下さい

い

アンケート終了、連載開始につき

はい、天儀凌です！

2010年12月28日午前10時を持ってマスターのアンケートを終了いたしました！

結果は

間桐桜、間桐雁夜 各4票

イリヤ、遠坂凜、蒼崎姉妹それぞれ、葛木（ステイナイト派？） 各1票

でした！

ですので、雁夜救済ルートか、桜救済ルートか、

聖杯戦争崩壊（これは間桐家にとつてノーマルに近い）ルート

か悩んだのですが、雁夜救済ルートは他の人もしているし、

聖杯戦争崩壊ルートも何だかんだで多い・・・

という事でこの『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』は、

桜救済ルートです！

なので執筆を始めたいと思います！

余談ですが100000アクセス達成につきiチルートも書きます！

この桜救済ルートの事項ですが・・・（見たく無い人はここで終了です）
ネタバレ

- ・イレギュラーサーヴァント的理由は有ります
- ・桜に召喚されます（当然）
- ・ルートの通り桜が助け、助けられます
- ・原作ブレイク超有ります
- ・虫爺を直す考えは今の所は無い（雁夜は有りますよ）
- ・この第四次聖杯戦争は8組のサーヴァントとマスターで争われる
- ・イレギュラーサーヴァントである

・口調、性格ははつきりしません、ただマスターが望む混沌を、です

自分の意志はありますが、また違います

・他のマスター やサーヴァントと交友を持つたり、敵対するのは当然です

i-fルートでも書きましたが、関わりを持っていきます

なので桜救済ルートの中に衛宮切嗣解体ルートも混じつたりします

今の所そんな所です！

主人公設定も更新する予定です！

今後も『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をお願いします！

アンケート終了、連載開始につき（後書き）

ケイオス「ふーん、そうなったのか」

天儀凌「そうだな」

ケ「もうアクセス10000越えとはな・・・」

天「ヒヤホー！…という事でついに・i・ルートもしつかり始めます
よー！」

ケ「という事だ『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む

天「ではでは！」

第1話混沌の召喚（前書き）

いつも、天儀凌です！
ついに第1話投稿です！
お楽しみ下さい・・・

第1話混沌の召喚

私はムシグラニアにつまでいるんだ奴^{アツ}。

ムシの中につまでいるんだ奴^{アツ}？

一体私はどうなってるんだ奴^{アツ}？

助けてほしい・・・でも助ける人はいない・・・

雁夜おじさんはどうか遠くへ行っちゃつてしまつた・・・

私はこんどはどんな授業を受けるの？

田をもつ開じよつ・・・暗闇の中に身を置いて・・・あれ？

あれは丸い魔法陣？何で輝いてるの？

誰か出でくる・・・あなたはいつたい誰？

「俺はイレギュラーサーヴァント、ルーラー、召喚に応じ参上した、

間に答える、お前が混沌たる俺を呼び出したのか?」

ルーラーっていう人は青年だった、顔や服に黒い文様を付けて・・・

「わからない・・・でも助けてって・・・思った」

「ならばお前がマスターだ右手を見る」

「??.?.?.?.」

右手に三つの紋様?がある・・・

「それは令呪、3つの聖痕、命令権だ、要は俺を援護、規制したり出来るものだ」

「そして俺をしつかり見ろ」

「何・・・」れ?C?B?

クラス ルーラー

真名 ???

マスター 間桐桜

性別 男

属性 混沌・中庸

筋力 C

耐久 B

敏捷 C

魔力 A+

幸運 D

宝具 ??

クラス別スキル

陣地作成：A

魔術師として、自ら有利な陣地を作りあげる。
”工房”を上回る”神殿”を形成出来る。

保有スキル

混沌自立（単独行動：A +）

混沌がなくなる事はなく、始祖神である事から。

マスターからの魔力供給が無くてもある程度自立できる。
これ程のランクになると2週間は限界可能。

神性：A + (F)、魔性：A + (F)

このランクになると神と同義であるが、
光と影すら伴う混沌なので影になる事で
神靈適性をほぼ全てなくす事が可能である。
その代り反対の魔族適性を得る。

？？？

「それはステータス透視能力だ。サーヴァントを見ただけで俺はも
ちろん、

他の奴らのステータスも少し見えるぞ」

「でも、何で私が」

「知らん、聖杯の遊戯なのかもしねりないが？」

？？？それでも私をマスターにするなんてどういう事だろ？

「…………」

「ところでマスター「桜つて呼んで」……では桜、君は何を願うのかね？」

もう私はムシに犯されている……でも……

「私は……会いたい、姉さんや母さんや雁夜おじさん……

」

「ふむ、ではまず「少し待つてくれんかの?」むへ

お爺様……たぶんルーラーってこの人が出てきたから来たんだ……

「何かな?」

ルーラーは何か厳しい表情になつた……

「儂は間桐臘硯、間桐家の家老のよつな者じゃよ、カカカ」

「ふむ、ならば死んでくれ

「何?アアアアアアアガガガ!??」

「俺のマスターの為、狂いし元凶の虫はとく消えろ」

「グガアアア・・・」

お爺様を燃やし尽くした!?何なの?あの黒い炎?

「では、君の虫を変えよう」

出来るの?と思つたらルーラーは私に触れ、

「『反抗』を『従順』に変更、我が混沌が命ずる」

「ひー!・・・・・ってあれ?」

「君を浸食していた寄生虫を安全なものに変えておいた、これで魔術師

としては問題無いな、数日すれば体も慣れる

「じつこいつ事っ.」

「間桐臘硯は死に、君は自由の身になつたといつ事だ、次に間桐雁
夜だ」

「へ、うる」

要は私は命それで、怖かったお爺様はもういないんだよね?

「そういう事だ、ああ、ねじさんの所へ行くぞ

「心が読めるの?..」

「少しだけだ、さて彼がいる部屋はどうかね?..」

「何ー？ 間桐臘硯が死んだー？」

「ああ、私が全て滅した、後は君だけなんだよ、間桐雁夜」

「お願い、雁夜おじさん」

「ああ、わかってるよ桜ちやん」

「では、すぐに・・・『反抗』を『従順』に変更、我が混沌が命ずる

「うーーー？・・・・・本当に痛みが消えた・・・」

「重ねるが、その分リスクキーだが仕方あるまー、

『崩壊』を『再生』に変更、我が混沌が命ずる

「ビハニウ・・・ヒハ・・・・ゲヒーー？」

「雁夜おじさん、つて・・・」

雁夜が急に苦しみだして、私も倒れた？

「む、魔力切れか？まあ、ゆっくり休むといこー

やつしてルーラーの言つとおり私は眠りについた・・・

第1話混沌の召喚（後書き）

天儀凌「といつ事で第1話です！」

ケイオス「臓硯は殺したな」

天「うん、どうしようか悩んだけどどね・・・」

ケ「間桐桜がマスターか、まあ言つた通りだな」

天「雁夜派の人すいません、うちは桜へ雁夜だと思つんで」

ケ「といつ事で俺の魔術？が出てきたな」

天「はい、これがルーラーもといケイオスの宝具です！」

ケ「次回はさらに内容が濃くなりそうだな」

天「そうだね、ではよつなら、今度は第2話で会いましょう！」

『意見』』感想どしどしごつぞー！アンケートもお願いします！

ケイオスの絵を描きたい方もどしごつぞー！もしも通つた場合は

挿絵として載せます、挿絵無しの場合も有りますが

ケ「では『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

第1話混沌の召喚・裏（前書き）

どうも、天儀凌です！

第1話裏行かせてもらいます！

それではどうぞ！

第1話混沌の召喚・裏

ん、ここは混沌の中か！？

「つー…うぐああああー！？」

何だこれは！？

混沌の全概念を記録、及び肉体の更新

ケイオス＝Ζ＝カイザーの経験を記録

唯一つの混沌世界を獲得

「何だこれは・・・って混沌になつたのか俺は・・・」

変わっていく、俺が

であつた人格は消えていく・・・

「ふむ、俺の名はケイオス、ケイオス＝Ζ＝カイザーだな」

自分を確認した後、何か呼ばれる気がした・・・

私はムシグラにこつまでいるんだね!?

それは知らない、自分で決める

ムシの中にこつまでいるんだね!?

それも知らん、絶望の果てだと?そんなのはただの愚鈍だよ

一体私はどうなってるんだね!?

衰弱してまともでは無いか・・・

助けてほしい・・・でも助ける人はいない・・・

ほつ、諦めまだ願つと?質は悪くても混沌だなあ・・・

雁夜おじさんせせらぎが遠くへ行つたりやつてしまつた・・・

おじさんとは・・・また混沌の気配がする・・・

私は「こんどはどんな授業を受けるの？」

授業？そんなのは受けなくともいい、構わない

目をもう閉じよつ・・・暗闇の中に身を置いて・・・

まだ早い、その混沌、俺が見定めてやろう！

聖杯戦争、冬木、サーヴァントとマスター、万能の願望器、現代の
知識・・・

俺は、呼ばれる声に応じ目を覚ました・・・

あなたはいつたい誰？

ん？驚きで声が出てないだと？つまり故意では無い？

「俺はイレギュラーサーヴァント、ルーラー、召喚に応じ参上した、

間に答える、お前が混沌たる俺を呼び出したのか？」

まあ、質問としてはこれだらう、聖杯戦争……

今回の世界は冬木といつ所だな……

「わからない……でも助けてって……思った」

ふむ、混沌であるには間違いない、いずれ破滅が待っていた将来だ、

俺が変えても問題無いだらう？

「ならばお前がマスターだ右手を見る」

まずは聖杯戦争についておしえないとなあ……

「？？？・・・・」

「それは令呪、3つの聖痕、命令権だ、要は俺を援護、規制したり出来るものだ」

まあ、令呪は教えないとい、この子が間桐桜である事は

俺の唯一つの混沌世界の劣化版の『分別』でわかつているしな、

間桐家は令呪を作ったお膝元だというしね……後は

「そして俺をしつかり見ろ」

ステータス透視である、これはとても重要だ、特に俺にとつてはな

「何……」れ? C? B? 「

「それはステータス透視能力だ。サーヴァントを見ただけで俺はも
ちろん、

他の奴らのステータスも少し見えるぞ」

ん、何か不安があるようにしているか?

「でも、何で私が」

「知らん、聖杯の遊戯なのかもしれないが？」

彼女のマスターになつた理由については軽くあしらつた、

おやじへ、俺はイレギュラー（…………）、

カオス（あの野郎）のせことば言えない……

「…………」

やはり、何か願う事があるか聞いてみるか？

「ところでマスター」「桜って呼んで」「では桜、君は何を願うのかね？」

ほつ、名も知らなかつた相手に如何とま・・・救世主扱いかね？

良じじやないか、やつてやるわそれもまた混沌なのだから・・・

「私は・・・・・会いたい、姉さんや母さんや雁夜おじさん・・・

」

『知識』、『分別』、桜の言葉に動け、我が混沌が命ず・・・

ふむ、遠坂凜、遠坂葵、間桐雁夜か・・・

「ふむ、ではまず「少し待つてくれんかの」「へ・むへ・

誰かな？あの魔性めいた老人は・・・

間桐藏硯、マキリ・ゾオルケン、始まりの一人、不老不死を願う、
変質、第三魔法ヘブンズファイールから自身の不老不死へと堕落

間桐雁夜、遠坂桜改め間桐桜に対しての・・・

今の我が混沌にあのよつな蟲は必要無し・・・

『破滅』、『暴食』の概念を我が混沌の炎に『える』・・・

「何かね？」

柔らかい表情から真剣な表情へ変化する・・・

「儂は間桐臘硯、間桐家の家老のような者じゃよ、力力力」

俺が得た情報と一致、即座に我が混沌が命ず、

『破滅』、『暴食』の炎よ、あの蟲を概念諸共焼き灭べせー・

「ふむ、ならば死んでくれ

「何?アアアアアガガガ!-??

「俺のマスターの為、狂いし元凶の虫はとく消える」

「グガアアア・・・」

間桐臘硯といつ名の蟲は焼かれた・・・

ふむ、初めてこじては上手くいったな・・・

この屋敷全体の蟲血体を殺したか・・・

「じゃ、君の虫を殺えよう

さて、桜君に埋め込まれてこりであります蟲を殺えるとするかな・・・

出来るか?無論、我が混沌はほほ全て(・・・・)の概念が有る

まあ、自分には触れなくても良いんだが、相手となると触れないとなあ・・・

「『反抗』を『従順』に変更、我が混沌が命ずる

「うーーーーーーーーーあれ?」

一足の(・・・)概念を他の(・・)概念に変えるのは難しげな・・・

まあ、反対に似た（・・・・・）これで難しいのだ、

近くも遠くもない（・・・・・）概念を覚えるのは難しいか
ね？

「君を漫食していた寄生虫を安全なものに変えておいた、これで魔
術師

としては問題無いな、数日すれば体も慣れる」

あくまで魔術師だ、人としての心は自分で取戻してこそだと俺は思つ

65

「どうこう事っ」

「闇桐臓硯は死に、君は皿虫の身になつたという事だ、次に闇桐雁
夜だ」

「へ、うん」

ん？君の思い通り、君は治つ、

間桐蔵硯は俺オリジナル（・・・・・）の獄炎で焼かれたという事だな、

「どうやら桜は頭は良いよつだ、魔術師としても大成するな」これは・・・

虚数属性、水属性の多重属性とは・・・しかも魔術回路の多さ、

間違いない、これは育てれば立派な魔術師になる、

俺の特訓場所にでも連れ込むか？

「そういう事だ、まあ、おじさんの所へ行くぞ」

「心が読めるの？」

まあ、『知識』と『分別』を使っているからだが・・・

「少しだけだ、さて彼がいる部屋はどうかね？」

さて、もう一人治療してみるか・・・

「何！？間桐臘硯が死んだ！？」

・俺は間桐雁夜に間桐藏硯を焼き、間桐雁夜の治療を行う事を言った。

「ああ、私が全て滅した、後は君だけなんだよ、間桐雁夜」

「お願い、雁夜おじさん」

桜も一生懸命頭をさげてている・・・

「ああ、わかつてゐよ桜ちゃん」

雁夜もいきなりの事で動搖している・・・

「では、すぐに・・『反抗』を『従順』に変更、我が混沌が命ずる」

蟲の活動の概念を変更させる・・・

「ううー？・・・本当に痛みが消えた・・・」

まだ、する事はある・・・

「重ねるが、その分リスクだが仕方あるまい、

『崩壊』を『再生』に変更、我が混沌が命ずる

身体も治さんとなあ・・・

「どうこう・・・ひ・・・ぐうー?」

「雁夜おじさん、つて・・・」

二人ともダウンか・・・

「む、魔力切れか?まあ、ゆっくり休むといい

雁夜は身体の急な回復、桜は急激な魔力消費で・・・

すべての俺にかかった概念は排除、我が混沌が命ずる、

また、雁夜の概念は完了次第排除する、つと・・・

これは唯一つの混沌世界はあまり使わない方が良いな・・・

魔力燃費がとてつもなく悪い（・・）のだ・・・

「バーサーカー・・・」

狂戦士に実体化してもらい、

「 a a a • • •」

「すまんが、手伝ってくれ、寝室ぐらいわかるだろ?」

「 a a a • • •」

狂戦士と共に、俺は寝室に向かうのだった・・・

第1話混沌の召喚・裏（後書き）

天儀凌「といつ事で第1話の裏です！」

ケイオス「ふーん、まあどうでもいいが・・・」

天「良くない！！まあ、特に何もないの」

「意見、感想どしどしどうぞ！――

他作品アンケートもどうぞ！――

ケ「では『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

第2話混沌の説明、暗躍開始（前書き）

どうも！天儀凌です！

日間ランキング85位、

PVアクセス200000到達、ユニーク5000到達！

本当に感謝です！

それでは第2話どうぞ！

ちなみに基本的に表は桜視点、裏はルーラー（ケイオス）視点です

第2話混沌の説明、暗躍開始

「では、どこから聞きたい? もしくはしてほしいのかな? 桜、そして間桐雁夜」

ルーラーはソファーに座り、私たちに聞いた・・・

「桜ちゃんから聞いていいよ、自分のサーヴァントだからね・・・

「えつと・・・真名を教えて?」

「ああ、自己紹介がまだだつたか、俺はケイオス、ケイオス＝ニ＝カイザーだ」

「うん、よろしく、まず・・・何で雁夜おじさんが昔に戻つてゐるの?」

「これは聞かないといけないと思った・・・これは自分の願い? だからだ・・・

「それは俺の宝具が起因している、ま、最後は相手の精神力頼りなんだが、「

「そんな物を俺に使ったのか！？いや、確かに・・・」

雁夜おじさんも驚いている・・・

それはそうだ、1年前に戻っているんだから・・・

「深く考える必要は無い、単に俺の宝具が

唯一つの混沌世界といつぞの概念宝具のみを

持っていただけだ・・・俺は自分の宝具の概念とお前達の概念を入れ替えた（・・・・・）

「に過ぎないのだからね、私の『知識』は君が生き残ると信じていたようだよ・・・・・」

「・・・・・なら、バーサーカーがおとなしいのは・・・・？」

「マスターとの魔力バスで狂化が崩壊したのかもな」

「何故だ？お前、『崩壊』を『再生』に変更、と言つてなかつたか？」

「だからだ、概念が普通は消える事は無い、それに入れ替えた（・・・）だけだ、

バーサーカーに『崩壊』の概念が移っていた可能性はあるからな

「・・・・・」

ん？ルーラー、ううんケイオスのステータスが・・・

「聞いて良い？」

「ああ、すまない、つい怒っちゃってね・・・」

「何かな？」

「何か追加されてるの、そのステータスが？」

「見せてくれ、マスター」

「うん・・・」

クラス ルーラー

真名 ケイオス＝ゼ＝カイザー

マスター 間桐桜

属性 混沌・中庸

性別 男

ステータス ○は魔族適正が有る場合

筋力 C (B)

耐久 B (B)

敏捷 C (A)

魔力 A+ (B)

幸運 D (E)

宝具 EX

宝具

唯一つの混沌世界（フォー・カオス・ロードワールド）

ランク：EX（E～EX）

種別：概念宝具

混沌内の概念を全て操る事が出来る、概念の大きさで魔力消費が決まる。

但し、関連の少ない概念どうしを扱う場合、魔力消費は増大する。保有スキルの混沌自立、神性・魔性、混沌所持はこの宝具に影響されている。

『虚無』や『無限』等、操れない概念がある。

但し、それに準ずるような概念は操れる。

クラス別スキル

陣地作成：A

魔術師として、自ら有利な陣地を作りあげる。

”工房”を上回る”神殿”を形成出来る。

保有スキル

混沌自立（単独行動：A+）

混沌がなくなる事はなく、始祖神である事から。

マスターからの魔力供給が無くてもある程度自立できる。これ程のランクになると2週間は限界可能。

神性：A+（F）、魔性：A+（F）

このランクになると神と同義であるが、光と影すら伴う混沌なので影になる事で神靈適性をほぼ全てなくす事が可能である。その代り反対の魔族適性を得る。

混沌所持：A

精神系、呪術系の魔術を全て遮断出来る。

宝具の場合もAランク以下の場合防ぐ事が可能。マスターに対魔力D程度、自身に対魔力Bが付く。

マスターにこのスキルを与えるのは可能だが、その場合、神性ランクか魔性ランクが着き、魔力値が上がる。

自身のステータスは下がる。

「ふむ、全て出揃つたな・・・それで良いぞ、慣れてきたな桜」

「うん、ありがとうルーラー」

「桜を救ってくれたのは感謝する、俺じや確かに無理だつた、

だが俺にバーサーカーがいるのに、どうしてお前は召喚されたんだ

？」

「さあな、桜にも言つたが聖杯の遊戯だと思つがね・・・」

それでも、おかしいとは思つのは何故だらう。

「それでも8体は異常なんでしょう？あなたは何かわからないの？」

しばりくしてルーラーが考えて田を睨つて言つた、

「ふむ、聖杯が穢れている（・・・・・）だとしたら？」

「えつー？」「なつー？」

嘘、そんな事つて・・・

「まずは聖杯戦争を俺の宝具で調べれば良いだらう、それでもつて

俺が歓迎された理由もな」

何故か笑うルーラーが怖い・・・お爺様がいるような気がする、でも・・・

「ルーラー・・・お願い」

「『本』という概念を起動、そして聖杯の『知識』を示せ、我が混沌が命する」

何か黒い分厚い本が出てきて、ルーラーはめぐり始めた・・・そして、

「ふむ・・・む?」これは・・・

「どうしたの?」

「成る程なあ、これなら俺が歓迎される訳だ・・・

わかつたぞ、マスター(・・・)、聖杯は文字通り穢れでいる

「どうこう事だ?」

雁夜おじさんと同じ質問をしてみた・・・聖杯が穢れでいる?

「簡単に説明するが、時は六十年前第三次聖杯戦争、

「無論、人間と同等に等しい奴では英靈には勝てない、
そつとした」

「誰だそいつは……？」

「雁夜おじさんが聞く、一体最強の英靈つて？」

「それは拝火教、ゾロアスター教のこの世全ての悪、アンリマコ」

「つー？でもそれは……神の領域だろ？不可能なんじゃ」

「その通り、そんな事は不可能だ、

代わりに召喚されたのはクラスはアヴェンジャー（復讐者）、

アンリマコとされ犠牲にされたただの村の少年だった

「……」

81

四日目でアインツベルンは敗退しアヴェンジャーは大聖杯に吸収された、

だがそれだけでは終わらない、人の悪意を持ったアヴェンジャーは

ある願いを聖杯で叶えてしまった・・・ただ悪であれとね、

そして聖杯の器、小聖杯も途中で破壊されてしまった為、

大聖杯に悪の魔力は溜まり続け、無から破壊でしか叶えられない欠
陥品になつた

「じゃあ、聖杯って最大の呪いの品つて事か！？」

「無論、しかもまだ続いてね、令呪つてのはサーヴァントを自害さ
せる

ものでね、聖杯の中身はサーヴァント7体分の魔力、

そして「アインツベルンの専用のホムンクルスだそうだ」

「待て、それじゃあ……」

「ま、バーサーカーも俺もそつ考えて殺されても良さそつな感じがするな、

バーサーカーも願いが叶えれば良いそうだし、俺は桜の為に行動するだけだ」

「じゃあ、ルーラー、私と一緒に居て……？」

「なら、私はルーラー（救世主）といるだけだ、一つめの令呪を使う。・

「なつ・・・はあ・・・良いだろ？、やつてやる！」の聖杯戦争、完膚無きまでに

壊し続けてやるつ

「うん！」

「俺も協力させてくれ！」

雁夜おじさん・・・

「良いの？」

「ああ、聖杯が壊れてるのなら俺も協力する、幸い身体は治つてゐ
んだ」

「ふつ、ならば作戦会議だ、この戦争必ず勝つぞ」

第2話混沌の説明、暗躍開始（後書き）

天儀凌「第2話投稿です！」

ケイオス「ま、日間ランキングベスト100入り、
総合アクセス20000突破、ユニーク5000突破な
らな」

天「ありがとうございますー！」意見「感想、

他作品アンケート、挿絵どしどしごー！」

ケ「では『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』
をよろしく頼む」

天「これで最後の更新かもしれないんで、皆さん良いお年を・・・」

第2話混沌の説明、暗躍開始・裏（前書き）

どうも、天儀凌です！

日間ランキングまだまだベスト100継続中です！

それでは第2話裏どうぞ！

第2話混沌の説明、暗躍開始・裏

「では、『じ』から聞きたい? もしくはしてほしにのかな? 桜、そして間桐雁夜」

マスターには全て理解した上で決めて貰おう、

裏切りも俺の身体にとつては良いかもしないが、それでは悪のみ。
・

愚鈍すぎるのでね・・・

「桜ちゃんから聞いていいよ、自分のサーヴァントだからね・・・」

やはり、雁夜は魔術師ではなく、魔術使い(・・・)、

いや一般人に近いな・・・

「えっと・・・真名を教えて?」

ん? そういえば・・・

「ああ、自己紹介がまだだつたか、俺はケイオス、ケイオス＝Ｚ＝ カイザーだ」

さて、ここからが本題だらうな・・・

「うん、よひしく、まづ・・・何で雁夜おじさんが昔に戻つてゐるの？」

当然か、普通こんなボロボロの状態になれば、回復どころか全快なんぞ

ランクAオーバーの宝具の場合でも無理だらうしな・・・

「それは俺の宝具が起因している、ま、最後は相手の精神力頼りなんだが」

あの蟲を入れられていて1年粘つたのだ、出来ると判断して間違いは無い、

俺の中の『知識』もそう判断したしな、

それに概念変換は肉体、精神全てを変革する物であるし・・・

「そんな物を俺に使ったのか！？いや、確かに・・・」

雁夜も驚く、それはそうだ、危険な物を大丈夫ですと受け取る馬鹿
もそういう

だが身体が治つて思考に嵌つている・・・

まあ、言つべき事は基本単純だ・・・

「深く考える必要は無い、単に俺の宝具が

唯一つの混沌世界とこう呑の概念宝具のみを

持つていただけだ・・・俺は自分の宝具の概念とお前達の概念を入れ替えた（・・・・・）

「こ過ぎないのだからね、私の『知識』は君が生き残ると信じていたようだよ・・・」

「・・・・・なら、バーサーカーがおとなしいのは・・・？」

考えうるのは一つだ・・・

「マスターとの魔力バスで狂化が崩壊したのかもな」

「何故だ？お前、『崩壊』を『再生』に変更、と言つてなかつたか？」

確かにその疑問は正しい、だが間違えている事がある、それは前提だ

「だからだ、概念が普通は消える事は無い、それに入れ替えた（・・・）だけだ、

バーサーカーに『崩壊』の概念が移っていた可能性はあるからな

これは流石に予想外ではあったが・・・

「・・・・・」

雁夜は唖然としているな、それはそうだ、自分を苦しめていたのが急に収まつたのだ、

ん、桜が疑問点を浮かべて「といつよつよく黙つてたな・・・

「聞いて良い?」

「ああ、すまない、つい怒つちゃってね・・・」

雁夜も反省して「いる・・・別に怒つてないぞ、」そつちあらも桜も・・・

とこいつよつ治したのだから怒られる道理は無いぞ?

「何かな?」

「何か追加されてるの、そのステータスが?」

「見せてくれ、マスター」

「うん・・・」

クラス ルーラー

真名 ケイオス＝ゼ＝カイザー

マスター 間桐桜

属性 混沌・中庸

性別 男

ステータス () は魔族適正が有る場合

筋力 C (B)

耐久 B (B)

敏捷 C (A)

魔力 A+ (B)

幸運 D (E)

宝具 EX

宝具

唯一つの混沌世界（フォー・カオス・ロードワールド）

ランク：EX (E~EX)

種別：概念宝具

混沌内の概念を全て操る事が出来る、概念の大きさで魔力消費が決まる。

但し、関連の少ない概念どうしを扱う場合、魔力消費は増大する。保有スキルの混沌自立、神性・魔性、混沌所持はこの宝具に影響されている。

『虚無』や『無限』等、操れない概念がある。

但し、それに準ずるような概念は操れる。

クラス別スキル

陣地作成：A

魔術師として、自ら有利な陣地を作りあげる。

”工房”を上回る”神殿”を形成出来る。

保有スキル

混沌自立（単独行動：A+）

混沌がなくなる事はなく、始祖神である事から。

マスターからの魔力供給が無くてもある程度自立できる。

これ程のランクになると2週間は限界可能。

神性：A+（F）、魔性：A+（F）

このランクになると神と同義であるが、光と影すら伴う混沌なので影になる事で神靈適性をほぼ全てなくす事が可能である。その代り反対の魔族適性を得る。

混沌所持：A

精神系、呪術系の魔術を全て遮断出来る。

宝具の場合もAランク以下の場合防ぐ事が可能。
マスターに対魔力D程度、自身に対魔力Bが付く。
マスターにこのスキルを与えるのは可能だが、その場合、
神性ランクか魔性ランクが着き、魔力値が上がる。
自身のステータスは下がる。

「ふむ、全て（・・）出揃つたな・・それで良いぞ、慣れてきた
な桜」

やはり、桜を育てよう・・魔力は靈脈とのバスを少しだけ繋げれ
ば・・

「うん、ありがとうルーラー」

感謝は要らないぞ？それは自分の力量が上がつただけだろうに・・

「桜を救ってくれたのは感謝する、俺じや確かに無理だった、

だが俺にバーサーカーがいるのに、どうしてお前は召喚されたんだ
？」

当然の疑問を投げかける雁夜・・・まあ、当然と言えば当然だが・・・

「さあな、桜にも言つたが聖杯の遊戯だと思うがね・・・」

桜の時と同じ答えを返す・・・

「それでも8体は異常なんでしょう？あなたは何かわからないの？」

ふむ、イレギュラー、聖杯、俺、混沌を司る者……うん、混沌？

「ふむ、聖杯が穢れている（…………）のだとしたら？」

「えつー?」「なつー?」

だろうな、俺もそう思いたい、なぜならそれは面倒になつてくるからだ、

え、観点が違う？そんな物は馬鹿（作者）に聞け、

ん、変な声が・・・まあともかく、

「まずは聖杯戦争を俺の宝具で調べれば良いだろ？、それでもって

俺が歓迎された理由もな」

混沌を歓迎するとは一体何の導きだ？

おっと、おもわず笑みが・・・

「ルーラー・・・お願ひ」

・ 惡がらせたな、といつそのお願ひは当然だ、すべ探ししてやる・

「『本』といつ概念を起動、そして聖杯の『知識』を示せ、我が混沌が命ずる」

黒い分厚い本が出てきたな・・・俺はめくり始めた・・・そして、

「ふむ・・・む？」これは・・・

うわ・・・」これは歓迎されるに違いないな・・・

「どうしたの？」

「成る程なあ、これなら俺が歓迎される訳だ・・・

わかつたぞ、マスター（・・・・）、聖杯は文字通り穢れている

間違いない、どう見てもこれは災厄の類だ・・・

「どういう事だ？」

桜と雁夜は同じ質問をしてみた・・・聖杯が穢れている?と・・・

それはそうだ、聖杯は万能の願望器だとそれでいたのだから・・・

「簡単に説明するが、時は六十年前第三次聖杯戦争、

アインツベルンは、最強の英靈を呼び出さうとある英靈を呼び出そうとした」

「誰だそいつは・・・?」

「それは挾火教、ゾロアスター教のこの世全ての悪、アンリマコ」

「つー?でもそれは・・・神の領域だろ?不可能なんじゃ」

「その通り、そんな事は不可能だ、

代わりに召喚されたのはクラスはアヴェンジャー（復讐者）、

アンリマコとされ犠牲にされたただの村の少年だった

俺というイレギュラー（・・・・・）はこるんだけどなあ・・・

「・・・・・」

「無論、人間と同等に等しい奴では英靈には勝てない、

四日目でアインツベルンは敗退しアヴェンジャーは大聖杯に吸収さ

れた、

だがそれだけでは終わらない、人の悪意を持つたアヴェンジャーは

ある願いを聖杯で叶えてしまった・・・ただ悪であれとね、

そして聖杯の器、小聖杯も途中で破壊されてしまった為、

大聖杯に悪の魔力は溜まり続け、無から破壊でしか叶えられない欠
陥品になつた

「じゃあ、聖杯って最大の呪いの品つて事かー!?」

「これからサーヴァントならさらに驚愕する所だな・・・

「無論、しかもまだ続いてね、今呪つてのはサーヴァント7体分の魔力、
せる

ものでね、聖杯の中身はサーヴァント7体分の魔力、

そしてアインツベルンの専用のホムンクルスだそうだ」

「待て、それじゃあ・・・」

「ま、バーサーカーも俺もそつ考へて殺されても良さそうな感じがするな、

バーサーカーも願いが叶えれば良いやうだし、俺は桜の為に行動するだけだ」

死ぬなら死ぬで構わない、基本どうでもいいのだ、俺にとってはな・・・

「じゃあ、ルーラー、私と一緒に居て・・・?」

「まじか!?・・・いや、本気か?令呪で令呪するとは、口調が元に戻りかけた・・・

「なつ・・・はあ・・・良いだろ?、やつてやるこの聖杯戦争、完膚無きまでに

壊し続けてやつ?」

「うんー。」

「俺も協力させてくれ！」

雁夜、まあ当然だな桜は無事、聖杯が穢れてるのなら論外といった所か・・・

「良いの?」

「ああ、聖杯が壊れてるのなら俺も協力する、幸い身体は治つてゐるんだ」

ならやる事は一つか・・・

「ふつ、ならば作戦会議だ、この戦争必ず勝つぞ」

第2話混沌の説明、暗躍開始・裏（後書き）

天儀凌「嬉しいね、PVアクセス300000越え、ユニーク6000越え！」

ケイオス「良かつたな、ま、これ程とは予想しなかったよ」

天「本当、ここで感想や意見、アンケートをしてくれた人に感謝します、

高尾様、ギロ様、NN様、さまよつ人様、ポッポ様、FET様、

毛根死滅丸（あだ名は毛利）様、杉やん様、himuro様、

アイス様、南雲ン様、誠にありがとうございます！」

ケ「これからも『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

天「ではでは！アンケート投票、挿絵募集中ですよ！」

第3話混沌の提案（多重視点に変更）（前書き）

どうも、天儀凌です！

PVアクセス40000越え、ニーク8000越え感謝です！

それではどうぞ！

第3話混沌の提案（多重視点に変更）

「ケイオス（ルーラー） sides」

「ふつ、ならば作戦会議だ、この戦争必ず勝つぞ」

「どうするの？」

「まずは敵対するであつたサーヴァントとマスターの排除、もしくは無力化、

聖杯の破壊もしくは無力化、出来れば元に戻す」

「そんな事出来るのか！？」

雁夜の疑問は当たり前だ、あれ程の魔力、出来ないのが当然、だが・
・・

「やつてみるしかあるまい、幸いチャンスはあるだろ？、

だからまずは一人にこの腕輪を付けてくれ、『試練』と『増大』と

『遅延』を纏わせてある

二人の戦力アップからだ……幸い3日くらい準備期間が余つている筈だからな

「どれくらい上がる（・・・）んだ？」

「魔術回路と魔力が増える、後は俺、つまり混沌の加護が付くからな」

「・・・危なくないか？」

「問題ない、俺は情報収集を行つから

二人はそれを付けて普通に生活していくれ

「ケイオス、危なくない？」

「桜、問題無いよ、既にアサシンが見張り（・・・）しているから

いは

『理解』で気配感知は出来てはいるし、既に起つた事なら『知識』を使える、

後、桜は俺を通常はルーラー（……）で呼んでくれ、

何故かアサシンが数体ここにいるみたいだしな……」

「うん、わかった、でも……なんでアサシンが？」

「おそれら一一番先に召喚されていたとしか考えられない、

それに数体といつ事は分身する宝具やスキルなんだらう」

厄介だ、暗躍は暗殺者の真骨頂、俺やバーサーカーではな……

「後、マスターとサーヴァントの申請はしたのか？」

「俺は行つてはいるけど、桜ちゃんは……」

やはり、まずいな……『知識』が役に立つおかげでむじろやりづらく感じるのは

「まあいいな、アサシンのマスターは言峰綺礼、監督役である言峰璃正の息子、

そして聖堂教会とも交友のある遠坂時臣、この3人が手を組んでいるようだ、

だから申請だけしてさっさと帰つてへんといひ

「遠坂・・・時臣・・・

雁夜はやはり桜を間桐家に移した事に怒っている様だ・・・

「父ちゃん・・・」

「ま、時臣の件は後だ・・・他のマスターについても全員出揃った

桜は自らの父であった時臣には敵対したくは無やうだ・・・

ようだな、

「インツベルンからは『魔術師殺し』衛宮切嗣、サーヴァントはセ

イバーか・・・

うお、こいつは時臣より厄介だな、魔術師なくせに現代武器の使用、殺害方法が狙撃、毒殺、公衆の面前で爆殺、乗り合わせた旅客機ごと撃墜とは・・・

半端な覚悟で出来る事じやない、リスクの大きさ、過密なスケジュール、間隔の短さ、

複数の計画を同時進行、時期が戦況が激化し破滅的になつた時期ばかり・・・

破綻者と言つた所かな、脅迫觀念があると見える

「遠坂からはもちろん当主の遠坂時臣か、サーヴァントはアーチャー・・・

火属性、宝石魔術操る・・・厄介だが、信念が魔術師や貴族

寄りだ、叩くチャンスはあるな・・・」

「間桐からは……って、要らないな……

他のマスターは落伍者と子供としか思つまい、

時臣に至つては手加減もあるかもな」

「外来マスターは……ケイネス・エルメロイ・アーチボルト、

サーヴァントはランサー、水と風の一重属性、

魔術師組織『時計塔』の花形魔術師か……また面倒な魔術師な事だ

・
「ウエイバー・ベルベット……ケイネスの弟子で、三流魔術師・

・
サーヴァントはライダー、まあ大穴を引いたらと言つた所か

「言峰綺礼……聖堂教会からのマスター、サーヴァントは言つた通りアサシン、

一度は魔術師を狩る“第八”の代行者にまで至った実力者、

一般的には三年前から遠坂時臣に師事、後に令呪を宿し師と離^反とされている、

だが水面下では遠坂時臣と協力、修得したカテゴリーは、

練金、降霊、召喚、ト占^{ぼくせん}・・・治癒に至つては時臣を超えるか、

『信仰』が無い、『情熱』が無い、これは厄介だ』

「最後に雨生龍之介、快樂殺人者・・・サーヴァントはキャスター、

おそらく聖杯戦争が何たるかわかつていない、一番の野次馬だな・・・

・

「結局わかったのはマスターとサーヴァントのクラスだけか・・・」

「期待しそうるのは無しだぞ、雁夜・・・まあ、申請しに行つてくれるとするか・・・

そつだ、陣地作成しておへか

～言峰綺礼 side～

「イレギュラーサーヴァント?」

私は父、言峰璃正に聞いていた・・・

「ああ、クラス名はわからんが8体目のサーヴァントとなる、

「これは異常事態だ・・・以前の聖杯戦争には起きた事だ」

『氣にする事は無いでしょ、アーチャーに勝てるサーヴァントはない、

ただ1体増えただけだと考えれば良いでしょ、それにマスターが桜なら問題は無い』

時臣師も父も何の問題も無いよつと話す・・・

「それでは、アサシンの数を間桐邸に増やしておきます」

「それでは私は申請に来るであろう間桐桜を待つとします」

『ああ、頼みましたよ言峰さん、綺礼は引き続き監視を頼む』

「わかりました・・・」

何か突っかかりがある・・・まるで私の中の疼きが出てくる様に、

イレギュラーサーヴァント・・・私の答えのきっかけにでもなるのか?

第3話混沌の提案（多重視点に変更）（後書き）

天儀凌「といつ事で第3話です！」

ケイオス「何か綺礼に印を付けられたな・・・」

天「フラグ立ったね・・・」

ケ「ま、頑張るしますか

『混沌の後継者 Father/Zero Eclipse』をよろしく頼む

天「来年もよろしくお願いします！他作品希望アンケート、挿絵募集中です！また、イメージC/Vを探している最中です」

特別編・混沌の元旦

一月一日某時天儀凌の家にて……

天儀凌「こたつは良いな、暖かいし、みかんだし、四人だし……」

ケイオス「ん? 四人だと……つておい」

カオス「ふむ、基本的に第0話でしか出番が無いのでね……」

? ? ? 「あら、ケイオス、細かい事を言ひ切らダメよ?」

天「Noooooooooooooo! ?あんた、??
? ! 出しゃだめだよ! -」

ケ「諦める、凌……こいつ、 なんだし……」

天「お前もやめろおおおお!! ネタバレ、ネタバレだから!! 他は
良いんだよ、

俺の悪口とか、悪口とか悪口とか……」

力「面倒だからどうせだ、定番の麻雀でも・・・」

天・ケ・？」「「乗つた！――」」

天「ケイオスウウウ！てめえの没ネタ出してくれるわああ――」

ケ「ざけるなああ――俺はカオスの没ネタをだすんだああ――」

？「私はケイオス狙いよ? 作者と協力ね?」

力「ならば私は敢えてケイオスの没ネタを景品狙いにしよう」

ケ「何・・・だと!？」

天「既に君以外は籠絡しているのですよ(笑)」

ケ「くそ、てめえら全員相手してやる!」

？「ふふふ、死亡フラグねそれ」

（三十分後）

天「ロン、小三元、混一色、ドラ3、跳ねたな・・・」

ケ「もう一回だ！！」

カ「苦しむだけだろう・・・」

（一時間後）

?「ツモ、七対子、ドリ4、6000、3000よ・・・跳ねたわ
ね」

ケ「く・・・」

力「君だけ跳ねて我々は30000以上はあるからな・・・さて、」

天「はい、ケイオスの没ネタを発表します！これ以外今ネタが無いので」

ケ「嘘つけ！」

天「はーい、負けた人は黙りなさい、ではどうぞ！」

（例えば、ケイオスが・・・）

ケ「ん、ここは？」

キヤスター「あら、ここがわかるかしら？」

ケ「ふむ、アサシンだな俺は・・・」

キ「あなたの真名は？」

ケ「・・・ケイオス＝ニ＝カイザーだ」

キ「知らないわね、まあ精一杯働いてもらひわよ」

ケ「はあ、いいだろ？・・・この戦い荒れさせてやるわ」

（例えば、ケイオスが・・・）

「一応は聞きますが貴方は？」

「俺はケイオス、ケイオス＝ニ＝カイザーだ、俺に何か用か・・・」

「私の守護騎士になつて欲しいのです、あなたの力と人格を見越して・・・」

「は？まあ良いが俺なんかで良いのか？」

「あなたは天涯孤独な癖に、人を救い続けた英雄なのでしょう？

「どうだろ？な、ただの人殺し（・・・）かもしけんぞ？」

「別にそんな顔はしていませんよ?」

「んん・・・わかったよ、オリヴィエ・ゼーゲブレヒト、俺は君の刃と成り、盾と成る」

「例えば、ケイオスが・・・」

「待つて、待つてよー!」

「む?私は君に呼ばれる筋合には無いぞ?」

「嘘、あなたは私を救つた!…そうじょ〜」

「あれは依頼だった、それだけだよ・・・」

「それでも、ケイオスあなたはいつまでも闇を背負つの?あなたは・・・」

「良いんだよ、俺は幸せだろお前に心配わねても・・・」

「待つて、消えないでよー！ケイオスーーーーー！」

「なあに、いざれまた会えるぞ、じゃあなヒヴァンジエリン・・・」

ケ「あのさあ・・・」

天「何？」

ケ「最初はモブ、後の二つは別作品入ってるだらうがーーーーー！
(今更ですがキャラは崩壊しています)」

カ「構わんだらう・・・・君の事だ、

自分がグッドにもバッドにも行けないくらい知っているだらうこね

・・・

? 「良いんじゃない? 気にしたら負けよ・・・」

天「そりゃ、やれと言われたら即検討、実行の俺だぞ?」

ケ「いい加減にしろーー!!」

天「はあ、わかったよ・・・終われば良いんだろ?」

『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』を来年
もよろしくお願ひします!

アンケート投票、挿絵、ご意見、ご感想どうぞ!――

力「ああ、私や、????の登場もあるらしきから安心しました

? 「いずれ本編で会いましょうね!」

ケ「俺は本当に主人公なのか?」

天「いや、特別編で君の良い所は無いんだ」

第4話混沌の探し合い（前書き）

どうも、天儀凌です！

総合PVアクセス50000越え、総合ユーチューブ9000越え・・・
本当に感謝です！

それでは第4話どうぞ！

第4話混沌の探し合い

（間桐桜 sides）

腕輪を付けた時から1日経つた……

『どう、ルーラー？』

『間違いない……奴ら（・・）は気付いてるなこれは

ルーラーの言つた通り、アサシンが私を監視しているみたい……

『どうすれば良い？』

『幻術を掛けたんだ、アサシン程度ならばれないさ』

『でも、髪や目に『退行』を入れただけで大丈夫？』

『『黒』を入れてもしあがないからな、それなら『退行』で問題無いし、

桜も俺にふさわしい（・・・・・）マスターになつたんだ、

誇るといい、気配探知も攻撃も防御も蟲を使って出来る、

魔力値も申し分無いしな・・・後は謀略戦だけということだ・・・』

『うん、わかつた

ルーラーがこれだけ褒めているんだ、後は頑張るだけだ・・・

『そ、行つてくれるといい

『うん・・・』

私は言峰教会（あぶない所）に入つていつた・・・

僕は部下である久宇舞弥に電話をした・・・

「という事は、間桐桜が8人目のマスターとして参加する事になつたか」

「それはイレギュラーなのでは？」

「僕もそう思う、既に（・・・）間桐雁夜がマスターとして参加している上でだからね」

「だが、マスターになったのは事実です・・・教会に行つたのは五分前くらいといった所

かと、サーヴァントのクラスはルーラー、イレギュラーサーヴァントだそうです」

「イレギュラーサーヴァント、クラスはルーラーか・・・

「情報が少ないですが・・・」

「構わないよ、落伍者と子供に過ぎない、これ程攻めやすい

マスターはいないだらうからね、いくらサーヴァントが強くても意味がないさ」

「マダムには?」

「FAXが既に来ているからね・・・問題無いよ、充分に気を付けるようにね」

「今後はどうしますか?」

「基本は、情報探索に努めてくれ・・・出来れば詳しくね

「了解しました」

舞弥との通信を切る・・・一体ルーラーとは何者なんだ?

僕はこの戦い、不安を感じていった・・・

（言峰綺礼 side）

「私、間桐桜は聖杯戦争の約定に従い、聖杯戦争の参加を宣言します」

「受諾する、監督役の責務に則つて、言峰璃正があなたの参加を認める、

あなたに祝福の加護が有らん事を」

「では失礼します、言峰璃正さん・・・」

「ええ、それでは」

「もう良こや」

「どうですか？彼女は・・・」

私は父に間桐桜の感想を聞いてみた・・・

「ふむ、普通の少女のようなものだ・・・魔術回路が多くても、警戒には値しないだろ？」

「そうですか・・・」

「そつは思えない・・・私の中で疼く、衛宮切嗣と同じ（・・）様に・

・

『桜が何故聖杯戦争に参加出来たかは知らないが、昔を思い出すね

間桐家に行つても変わつていないうだな

時臣師も言つてゐるが嘘だ・・・私の様に空虚だ・・・

昔の間桐桜とは絶対に違う、私にはわかる・・・

「では、間桐家周辺にアサシンの数を増やしておきます

』ああ、任せたよ綺礼

間違いなく間桐桜は空虚が有る・・・なのに光が有る、

私は違つか、彼女は答えを得て前に進むと言つのか！？

ルーラー、間桐桜・・・そして衛宮切嗣、待つていろ・・・

私はこの答えを必ず見つけ出してみせる・・・！

『どうだったかね？』

ルーラーは確かめる様に聞いてきた・・・

『うそ、誰か（・・・）居たのはわかった

』さて、早めに戻つて練習に努めて出来るだけ強くなつてもうひとつ

『どうなるのかな？この戦いは・・・』

本当に一体どうなるんだろう？

『さあな、間違いなく壊れた（・・・）戦いだ、誰もが後悔する事

が無いなら良いんだが』

『勝つよ、その為に戦うんだ』

『ふ・・・任せろ、俺の混沌を破る事適わず、消す事は完全に無い・・・

だがこの戦いに不可能だらけ、選択肢だらけだ』

間桐桜、ルーラーの参戦、この世界最大のイレギュラー・・・
第四次聖杯戦争は正史とは違う道を辿る・・・
この戦いは様々な運命が破壊され、創造されていく・・・
はたしてこの運命（f a t e）はどのような道筋を辿るのか？
F a t e / N e r o E c l i p s e ・・・光と闇が交錯する時混
沌の戦いが始まる・・・

「さて、ケイオス・・・君は光と闇の混沌を選んだかね、せいぜい
頑張つてもらおうか、

私も出でてゐる場合もあるだらうからね・・・はははは

傍観者さえも乱入する運命に答え等見つかりはしない・・・
さあ、混沌を始めよう・・・

第4話混沌の探し合い（後書き）

天「はい、ちょっと仕掛けた第4話です！さりげなくフラグ？投入です、

わからない場合はどこか探して下さい」

ケ「総合PVアクセス午前11時現在で50125アクセス、

総合ユニーク9959人だとはな」

天「本当にありがとうございます、感謝です！」

ケ「これからもよろしく頼む、

『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』を応援よろしくな

天「他作品希望アンケート、挿絵募集中ですよ！」

第5話混沌の準備（前書き）

どうも、天儀凌です！

すいません・・・2日程遅れました！

それでは第5話どうぞ！

第5話混沌の準備

so other sides

黄金のサーヴァントが黒いアサシンを躊躇していく様を

他の5組のマスターは見届けていた・・・

間桐桜 sides

「む、アサシンがやられたかな？」

「うそ、蟲もやつぱりいるし・・・」

「おかしいな、代行者がわざわざそんな事をする道理が無い、ここ
は疑つてかかるつ

とこより間違いなく組んでいるのだから俺達も気にしないで大
っぴらに

「正気か？後短くて数年、長くて十年程しかもたないお前がか、

「あれは俺とバーサーカーでもある、おれらへ相性も良いだろ？」

雁夜おじさん・・・

「ちょっと良いか？」

「金ぴかだったか？あの宝具の量、ステータスの高さ、プライドの

高さ・・・

「後、父さんのサーヴァントなんだけど・・・」

ルーラーは考え方をしながら笑っている・・・アサシンの正体を明かす気満々だ・・・

「暴れれば良い、アサシンを引き込むばいいつの領域だ」

あのアーチャーになあ・・・正直阿呆の極みだらう」「元通り

ルーラーの言ひ通り、雁夜おじさんの身体は既に限界に近いの・・

「やうだよ、おじさん・・・無理したら」

「既に無理してるんだ、もう慣れてる」

「はあ・・・面倒だ、バーサーカーの真名がある騎士なのだから、もう押さえつけてるんだろうな?」

ルーラーは諦め、状況把握を始めた・・・私情と思惑をすべ切り替える、

私には出来ない事だ・・・

「わかつてゐるが、絶対に死にましないよ・・・お前には借りが有るしな」

「それなら良いよ、あいつの関わりの有る奴がいたらそつちを重要視しろよ・・・

今日は嫌な予感がするんでな

「わかつた、そつしておく」

雁夜おじさんも若干冷静さを欠いているかもしだいけど落ち着いている・・・

「なあに桜、今回の聖杯戦争が終わったら、君ら4人くらいでどこか出かけるといい、

絶対に聖杯を壊す（・・）・・・どうこう結末であったとしてもね

「聖杯戦争の約定に従い、言峰綺礼は聖堂教会による身柄の保護を要求します」

「受諾する。監督役の責務に則つて、言峰璃正があなたの身の安全を保障する。

「ああ、じちじへ」

私は警戒しながら教会の中に入つた・・・

「万事、抜かりなく運んだようだな」

「父上、誰かこの教会を見張つている者は？」

「ない、ここは中立地帯として不可侵が保障されている・・・

余計な干渉をしたマスターは教会からの諫言があるからな、

そんな面倒を承知の上で敗残者に关心を払つ者などいる道理があるまい」

嫌な予感がする……いや、思い違いだらつ……

「では、安泰とこいつ」とですね」

万が一にも備えて……

「……念のため、警戒は怠るな。常に一人はここに配置するよう
に」

「……それと、現場の監視をしていた者は？」

あの惨状を監視していたアサシンを呼ぶ……

「はい、私でござります」

湧いて出てきたかのように黒衣の女のアサシンが出てくる……

「アサシンの死の現場に居合わせた使い魔は、気配の異なるものが
五種類おりました、

少なくとも五人のマスターが、あの光景を見届けたものと思われます」

「ふむ・・・・・一人足りないか」

やはり、間桐桜も使い魔を使役できる・・・これはどういう事だ?

つまりは普通の魔術師と劣らない(・・・)という事だろう?

その上一人は見ていない・・・

「父上、『靈器盤』は間違いなく、八体のサーヴァントの現界を感知していたのですね」

「ああ、相違ない・・・昨日、最後の『キャスター』と『ルーラー』が現界した。

相変わらずキャスターのマスターからの名乗り出はないが、

此度の聖杯戦争のサーヴァントは八体といひレギュラー(・・・・)がありつつも

すべて出揃つてゐるはずだ

「そうですか・・・・・・・・

私としては六人全員がに今夜の茶番を見つもらひたかったのだがな・
・

そもそも今の局面で御三家の邸宅を監視するところのせ、

聖杯戦争に参加するマスターとして当然の策でござるこましょつ・
・
その程度の用心も怠るような者であれば、どのみち我ら（・・・
アサシンを警戒する

神経など最初から持ち合わせておつましまい。結果としては問題ないかと」

「つむ・・・死なせて惜しかった男か？アレは

「あのザイードは我ら（・・）ハサンの一員としても、取り立てて

得てのない一人でした。

・・・・・

結局、アサシンからの情報に衛宮切嗣は出てこない・・・

かと書いて、間桐桜はどうかと言われてもこちらも情報不足だ・・・

私は本当にこの答えを見つけ出さなければならぬ・・・

父の聖杯への熱意とは裏腹に私の熱意は聖杯から離れていった・・・

第5話混沌の準備（後書き）

天儀凌「総合PVアクセス62891、総合ユニーク11925人！」

ケイオス「本当に感謝する、こんな作者によく付き合ってくれた」

天「ひどい！しかも最終回風とか！？」

ケ「では『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

天「無視！？まあ良いやもう・・・

他作品希望アンケート、挿絵募集中ですよー！ー！ー！

第6話混沌の戦闘準備（前書き）

いつも、天儀凌です！

それでは第6話です、ご覧ください！

第6話混沌の戦闘準備

「ルーラー sides」

さて、最高の高さ五〇メートル以上になる冬木大橋に居る俺だが・・・

理由としてあれからまた一日経つて探索していたんだが・・・

「ラ、イ、ダ、早く・・・・・・降りよう、ここ・・・・・・

早く！」

「おい、大丈夫なのか？ライダーのマスター・・・ウエイバーだったか？」

「おーおー・・・わざわざこんなマスター連れ出して、良いのかライダー？」

「見張るには眺え向きの場所くらいはわかるのではないか？ルーラー・・・

まあ今暫くは高みの見物と洒落込もうではないか

モーフィライダーはワインの酒瓶をぐびっと呷りながら、

漫然と奴は・・・俺もだが・・・海浜公園を見下ろしている・・・

サーヴァントの氣配を感じるので偶然会ったライダーに付きあつて
いる・・・

まあ、マスターの方は「何でワイン飲み合つてるんだ!？」と言つ
ていたが・・・

「わかるんだがな、ビーチも・・・面倒だと困つんだが?」マスターを
一緒に連れて

「そう言つて俺はワインを飲む・・・うーむ、酒か創つてみる(・・・
・・)か?

「アレは明らかに誘つておる、ああもあからさまに氣配を振りまい
ていれば、

すでに余やルーラーだけでなく、他のサーヴァントたちも奴を見
つけて

様子を窺つてゐることだらう・・・放つておけば、いづれ氣の短いマスターが

痺れを切らせて仕掛けれるやも知れん、それを期待して成り行きを見守る手だな」

『どうする? マスター・・・』

『ライダーと話して良いよ、多分組んでいる事はバレバレだしね』

『了解だ、そうしてもひらう』

「ひらも待つかな、もしも来ないならせいぜい暴れさせてもひらうよ・・・

もしもの場合は奇襲でも構わないんだらう? ライダー』

「そりか! フハハ・・・いや、なかなか業の有る奴・・・お主、どこの英雄だ? 』

ライダーは真剣な表情でこちらを見つめる・・・

「ふむ・・・君らとは一線を隠す英雄だからな、正直英雄が羨ましいな・・・

かと云つて反英雄にも成りきれない半端者だよ俺はね」

ふむ・・・と言つて考え始めるライダーもといイスカンダル王・・・

俺としてはアレキサンダーとかアレクサンドロス大王なんだがな・・・

「お、降りる！いや、降ろせ！も、も、もう嫌！」

「まあ待て、落ち着きのない奴め・・・坐して待つのも戦のうちだぞ」

「酷なのはわかるが、これでも一般常識を知ってるからな・・・後
諦めろ」

「頼む、ルーラー助けてくれ―――もう嫌だ―――」

「あ・・・はやく戦いが進んでくれないかね？」

「おーい！ルーラーもつ一杯だ！…」

「ほいほい、すぐ行くぞ・・・」

「おーい、小僧・・・そんなに手持ち無沙汰なら、預けてある本でも読んでおれ・・・」

良い書物だぞ

「ライダー・・・・なんで、こんな本、持つて、きた？」

「ほう、『イリアス』か・・・あの時代の中なら壮大な大叙事詩だな」

「イリアスは深慮だ・・・戦いの最中にも、ふと詩歌の一節が気になつて

仕方なくなるときが、まああるのでな・・・そんなときには、

「あぐれまんの場で読み返すこと」が済まんのだ

「おこおこ……本気か?」「その場で、って……戦場で?」

ライダーの言つた事に質問を返す俺とウエイバー……

「つむ

「戦場で……戦いながら、剣、振りながら。」

「わうだ

そもそもの」とのまゝリライダーは頷く……

「…………どうして?」

「右手で剣を執るときは左手で……左手が手綱を握るとさば、隣の小姓に音読させた」

「…………」「おこおこ、マスターを沈黙させてほしいんだ、

「ライダーよ」

「良いではないか、」この程度の冗談ならば誰もが笑い飛ばしたのは
眞実、

青くなつて呆けるようでは、まだまだ肝が細すきるのう余のマス
ターは」

「帰りたい・・・・・イギリスに帰りたい・・・・・」

「同情するぞ、ライダーのマスター・・・・む？状況がようやく動
いたか」

「何？この征服王としたことが・・・公園にもう一人別のサーヴァ
ントがあつたようだな、

そいつも気配を隠せんとは・・・・敵に近づいておる」

「じゃ、じゃあ・・・・・」

「二人とも向ひの港へ近づこうくな、とこつ事は・・・・・」

「売り言葉に買ひ言葉、ところわけだ……」れば一戦やらかすと見て良からう?」

「回惑だ、さて先に待ち伏せするか?」

「こや、ソロは正々堂々挑む、奪つ、征服する……それが余の王道よ」

「セレ、どうなるかねえ……まあ、狙撃させて欲しいなあ……

「

「いかんと言つていい、もつと派手なのは無いかのう?」

「わかつた、アーチャー弓兵ではなく、ライダ騎乗兵の真似事で良いか?」

「まう?見せてくれんかの?」

「行く時に見せてやるよ、なあに……君の宝具のような神祕を持つ奴を」

第6話混沌の戦闘準備（後書き）

天儀凌「はい、ライダーと会いました！」

ケイオス「そろそろ見せ場だな」

天「さあ、頑張りますよ！」

ケ「『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む

天「他作品希望アンケート、挿絵募集中ですよー！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8314z/>

混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse

2012年1月8日20時53分発行